

めぐみイエス・キリスト教会

2023年2月26日(日) 第四主日礼拝

午前10時より

週報「通算第646号」



2023年標題聖句

第 I ヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌148「夕べ雲焼くる」 p. 206

【交読文】 No.27 詩篇第90篇 p. 900

【賛美Ⅱ】 新聖歌419「起こし給え」 p. 674

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「ビジョン」

【聖書朗読】 使徒の働き23章1節～10節 新約p. 283上段

【礼拝説教】 《パウロと最高法院》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※聖書箇所(使徒の働き23章1節～10節 新約p. 283上段)

23:1 パウロは、最高法院の人々を見つめて言った。「兄弟たち。私は今日まで、あくまでも健全な良心にしたがって、神の前に生きてきました。」

23:2 すると、大祭司アナニアは、パウロのそばに立っていた者たちに、彼の口を打つように命じた。

23:3 そこで、パウロはアナニアに向かって言った。「白く塗った壁よ、神があなたを打たれる。あなたは、律法にしたがって私をさばく座に着いていながら、律法に背いて私を打てと命じるのか。」

23:4 すると、そばに立っていた者たちが「あなたは神の大祭司をののしるのか」と言ったので、

23:5 パウロは答えた。「兄弟たち。私は彼が大祭司だとは知らなかった。確かに、『あなたの民の指導者を悪く言ってはならない』と書かれています。」

23:6 パウロは、彼らの一部がサドカイ人で、一部がパリサイ人であるのを見てとって、最高法院の中でこう叫んだ。「兄弟たち、私はパリサイ人で

す。パリサイ人の子です。私は死者の復活という望みのことで、さばきを受けているのです。」

23:7 パウロがこう言うと、パリサイ人とサドカイ人の間に論争が起こり、最高法院は二つに割れた。

23:8 サドカイ人は復活も御使いも霊もないと言い、パリサイ人はいずれも認めているからである。

23:9 騒ぎは大きくなった。そして、パリサイ派の律法学者たちが何人か立ち上がって、激しく論じ、「この人には何の悪い点も見られない。もしかしたら、霊か御使いが彼に語りかけたのかもしれない」と言った。

23:10 論争がますます激しくなったので、千人隊長は、パウロが彼らに引き裂かれてしまうのではないかと恐れた。それで兵士たちに、降りて行ってパウロを彼らの中から引っ張り出し、兵営に連れて行くように命じた。

●ポイント1.「最高法院(議会)」とは？

※民数記11章16節「モーセへの言葉」(旧約p.257下段真中)

11:16 主はモーセに言われた。「イスラエルの長老たちのうちから、民の長老で、あなたが民のつかさと認める者七十人を私のために集めよ。そして、彼らを会見の天幕に連れて来て、そこであなたの側に立たせよ。」

■サンヘドリン ラビ伝承では、議会はモーセが神の命令により集めた70人の長老に起源を持つとしている。ローマの支配下、サンヘドリンは中央や地方の諸機構で立法、行政、司法上の権限を委託された自治機関であった。また、エルサレム神殿の丘に集まる70名(または71名)の議員から成っていた。最高責任者は大祭司でその下に議長がおり、2人は「1対の賢者」と呼ばれた。議員はサドカイ派出身の祭司グループ、書記とか賢者と呼ばれるパリサイ派、それに一般人グループから成った。無罪釈放のためには議員の過半数が、有罪宣告のためには議員の3分の2を越す数が要求された。このほか神殿祭儀の監督、祭司や裁判官の任職を行ない、新月とうるう年を宣言して全世界のユダヤ人祝祭日を決定する権限を持っていた。また「最高律法教育機関」としての権能を持ち、ヒルレル、シャンマイ、ラバン・ガマリエルなどの逸材を輩出した。ヘロデ大王の死後、中央の権限は縮小されたが、70年エルサレム陥落にまで至った。

◎先週の礼拝メッセージ【パウロと千人隊長】

《「こんな男は、地上から除いてしまえ。生かしておくべきではない。」人々がわめき立てた為、千人隊長はパウロを兵營の中に引き入れ、むちで打って取り調べるように言います。エルサレムで起こった騒動から、パウロを守る重要な役割を担ったのがこの千人隊長なのです。「千人隊長」は、現在の陸軍大佐に相当します。この千人隊長は、エルサレムに駐留するローマ守備隊の指揮官と理解されています。

ところで、なぜこの千人隊長の名前が書かれていないのでしょうか。私は後に、パウロを通して彼が救われたと考えています。それ故、あえてルカは彼の名前を伏せたに違いありません。

さて、パウロは鎖で縛られ、今まさにムチ打たれようとした時、初めて自分の身分を明らかにします。

「ローマ市民である者を、裁判にもかけずに、むちで打ってよいのですか。」「どうなさいますか。あの人はローマ市民です。」

「私に言いなさい。あなたはローマ市民なのか。」「そうです。」

ローマ市民とは、もともと貴族に限られていた市民権ですが、紀元前337年には一般市民にも与えられるようになりました。ローマ市民は、投票権、士官権、判事の判決に反対して議会(後に皇帝)に告訴する権利が与えられ、さらに様々な保証が授けられていたのです。

「私は多額の金でこの市民権を手に入れたのだ。」

「私は生まれながらの市民です。」

パウロの両親は、軍の天幕造りの功績によって、カイザルからローマ市民権を授かったと伝えられています。それゆえ、パウロは生まれながらにしてローマ市民であったわけです。私たちは、主イエス様の十字架の贖いによって、神の子どもとされました。そして、天の御国の市民権が与えられています。聖霊の証印が押されています。》

お知らせ

※次回の礼拝は、時間変更して、3月5日(日)午後2時からを予定しています。3月12日(日)からは通常通り、午前10時から行ないます。